

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)  
 大学院生研究  
 2011年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 観光学 研究科 観光学 専攻		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	観光学研究科・観光学専攻・D3	柳 銀珠 印	
指導教員	所属・職名	氏名	
	観光学部交流文化学科・教授	葛野浩昭 印	
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ <input type="checkbox"/> 社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題名	日本の高齢者にとって観光がもつ意味と機能—高齢者の観光への積極的な参加と旅行会社の対応を中心に		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2011年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、観光を提供する側と観光する側の両方の観点から高齢者観光の現実を検討し、高齢者にとって観光が持つ意味と機能を明らかにすることを目的としたものである。特に、「高齢者の社会的特徴と観光の関わり」「観光と一緒に出かける高齢者同士の人間関係」に着目した。この研究課題を明らかにするために、高齢者を対象に観光意識や観光経験に関する自由記述形式の質問紙調査とデプスインタビューを通して、観光経験がどのように語られるかを分析した。また、高齢者向け観光への参加を通じ、その動向を把握した。さらに、複数の高齢者向けの旅行会社の現場調査や関係者への聞き取り調査を通して、旅行会社の新たな取り組みや経営戦略、高齢者向けの旅行商品の現状と重要な構成要素について考察を行った。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 高齢者 } { 観光 } { 機能 }

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の目的は、高齢者にとって観光が持つ意味とその機能とは何かを明らかにすることである。本研究で対象としている高齢者は、高齢者一般のすべてを含むものではない。高齢者の中でも特に高齢者向け旅行会社が販売している商品を利用する人々(パッケージツアーに参加する人々)、その中でも観光を好み、主体的に観光活動に参加し、観光に積極的な意味を見出している人々が主な考察の対象である。

この研究目的を明らかにするために、本研究では文献調査と観光を提供する側(高齢者をターゲットとする旅行会社の現場調査及び関係者への聞き取り調査、旅行商品の事例調査)と観光する側(60歳以上の人々の観光意識に関する質問紙調査、ライフヒストリーを含めた観光経験に関する聞き取り調査、参与観察調査)の両方の観点から調査を行った。

その結果、以下のような研究成果が得られた。

高齢者にとって観光は、単に個人の楽しみを追求するものだけではなく、その楽しみの中には、家族や他者との思い出、高齢者自身の様々な人生の出来事や経験などが深く関連していた。また、高齢者の中には、「観光」と「旅」、「旅行」を異なる意味合いで捉える人々も存在した。「観光」を有名で定番の観光地を「見る」ものとして捉えているのとは対照的に、「旅」と「旅行」を興味のあるもの、人生との関連性を持つものとして位置づけ、「観光」よりも深い意味のあるものとして捉えていた。これは、高齢者の長い人生経験が観光に反映されているからこそ、自分の観光経験を大切にしたいという意識が強く作用したと考えられる。高齢者向け旅行会社も同様に、「観光」を「旅」として位置づけ、「旅」は物見遊山と対比するもの、何かの価値を見出すものとして規定していた。

このように、近代の産物である「観光」とは異なる「旅」、「旅行」を価値のあるものとして捉えるという言説は、本研究における「観光」の意味を再考させてくれた。

一方、高齢者の場合は若年層と異なり、加齢による様々な変化や限られた余生に直面することになる。そのため、若い頃とは異なる観光形態を求めており、自分なりの観光の楽しみ方を持っていた。また、高齢者は観光を多様な文脈の中で捉えており、調査対象者により観光が意味するものは各人各様であった。その中で、本研究では、高齢者の生活や人生との関連、観光の場で生まれる高齢者同士の出会いに焦点を当て、観光が具体的にどのような機能を果たしているのかを考察した。

その結果、高齢者の人生で観光は、新たな転換装置としての機能を果たしていることが明らかになった。高齢期になると、加齢による感覚機能の衰えに適応しようとし、大きな刺激(喜び、いきいきとした気分など)や変化を求めるようになる。観光は、非日常的な空間へ移動することによって、人生の変化を短期間に感じさせてくれる。そのため、残りの人生が限られている高齢者にとって変化を感じる格好の手段となるのである。また、高齢期では多くの喪失に遭遇するが、その1つに生きる目的を失うことがある。しかしながら、高齢者は観光に出かけ、日常では気づかなかった何らかの変化を観光の場で経験してから、日常生活に戻ってくることによって、生きる意欲を得て活力のある人生に踏み出すことができるようになる。

高齢者向け旅行会社側も、観光を高齢者の生活や人生と密接に関連しているもの、人生の充実感や幸福感につながるものとして捉えていることから、観光が人生と深く関連性を持つことをよく認識していると考えられる。

次に、観光は高齢者同士の出会いの場としての機能を果たしている。高齢者は、定年退職、配偶者や友人との死別などによって人間関係が縮小され、そこから立ち直るためには、新たな人間関係を作る必要がある。高齢者はその人間関係構築の1つの手段として観光を選択する。

**研究成果の概要 つづき**

高齢者向け旅行会社も高齢者同士の出会いの場を提供し、高齢者同士の交流促進を図る様々な取り組みを行っている。特に本研究では、その取り組みの中でも全員一人参加ツアー（「おひとり参加限定の旅」「ララの旅」）の事例を取り上げている。これらのツアーを選択した理由は、年齢制限がないにもかかわらず高齢者の参加率が高く、全員一人参加で交流促進を目的としているため、興味深い事例であると考えたからである。ここでは、旅行会社側の交流促進の工夫とそのツアーに参加する人々の交流がどのように行われているのかを具体的に検討した。

旅行会社は参加者の属性に応じて座席配置を変更し、友達や家族同士の参加を制限するなどの工夫を通して参加者同士の交流を促進していた。高齢者は、旅行会社側の交流促進の工夫によって、共通の観光目的を持つ人、価値観が同じである人を主体的に選択する。また、その人達と自由に小グループを形成し、人間関係を構築していた。

では、なぜ、高齢者は観光を通して人間関係を構築していくのか。そこには、観光がもつ非日常的な楽しさと観光から得られるコミュニティ的状態という特徴を有しているからである。高齢者は社会的役割の喪失により、従来と異なった新しい自己像を再形成する必要がある。観光に出かけると、見知らぬ人々と出会うことによって日常での役割から離れて「個」としての新たな自己像を形成することが容易になる。観光に参加する人々が「個」として自己を見出すためには、コミュニティ的紐帯が必要となる。その人達と接することによって、高齢者は日常とは異なる新しい自己を確認し、観光で出会う他的高齢者との交流を通して、高齢者としての自己を再確認することができる。

また、観光の場で形成されたコミュニティ的紐帯が、日常に戻ってきてからも維持され、再構築されることが高齢者観光の特徴の1つである。旅行会社は、この紐帯を継続させるために、同窓会や交流会を作り、観光が終わった後にも高齢者同士が交流を図れるように取り組んでいる。高齢者側も個人的な会を作り、年賀状や写真を送りあうことによって、その関係を維持している人々がいた。なかには、観光の場で築いた人間関係を長期間にわたり維持する人々も存在した。

このように、コミュニティ的紐帯は、観光が生み出す様々な状況や偶然によって作り出される場合もあるが、高齢者が観光の場で主体的にコミュニティ的紐帯を作り、日常生活のなかで自らその関係を再構築していくこともある。この再構築された関係は、旅行会社が設定する人間関係の枠組みの範疇を超えている。このようなつながりの継続は、さらに新たな観光に出かける際の原動力となる。これは、他者との関係の中から、新たに観光が生み出される可能性を示唆している。

以上のことから、高齢者観光は、高齢者向け旅行会社とそれを利用する高齢者の相互作用によって成立していると言える。

最後に、一般的に、観光研究は個人の楽しみの側面が強調されている傾向にあるが、本研究は、他者との関わりの中から得られる観光の楽しみ、またそこから広がる人間関係に注目したことによって、高齢者観光の新たな一側面を提示できたと考えられる。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ □その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

## 1. 雑誌論文

① 雑誌論文 (柳銀珠、高齢者を対象とした観光研究の動向と課題、立教観光学研究紀要、13号、2011年、pp. 27-36)

## 2. その他

① 立教大学大学院観光学研究科 博士論文中間報告会

—発表テーマ: 「高齢者における観光の意味と機能に関する研究」

—開催日: 2011年7月26日

—開催場所: 立教大学新座キャンパス、N852教室

② 立教大学大学院観光学研究科 博士論文予備審査会

—発表テーマ: 「日本の高齢者にとって観光がもつ意味と機能—高齢者の観光への積極的な参加と旅行会社の対応に関する研究」

—開催日: 2011年10月11日

—開催場所: 立教大学新座キャンパス、N852教室